

令和3年度 県民の体力・スポーツに関する意識調査（概要） 報告書

調査目的

本調査は県民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも安全にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向け、県民のスポーツ活動を普及、推進するために、県民の意見・要望を把握し、今後のスポーツ政策の参考とすることを目的としています。

調査対象

令和3年度は郵便により層化二段無作為抽出法により選出された沖縄県内に在住する満20歳以上の男女4,000人に調査票を送付し、回収された760件の調査票を基に集計しました。

【調査対象期間】

令和4年1月28日(金)～令和4年2月14日(月)

【調査対象者】

沖縄県内に在住する満20歳以上の男女4,000人

回収760件(回収率:19.0%)

※宛先不明(42件)を考慮した回収率:19.2%

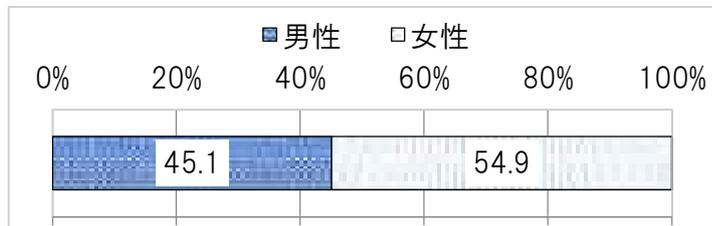
回答者の属性

今回のアンケート回答者の居住圏域は、「中部」が41.6%と最も多く、次いで「南部」が37.4%、「北部」が10.6%、「宮古」「八重山」が5.2%となっています。また、性別では、「女性」が54.9%、「男性」が45.1%となっています。年齢別では、「70歳代」が19.8%と最も多く、次いで「60歳代」が17.6%、「40歳代」が15.9%、「50歳代」が15.4%となっています。

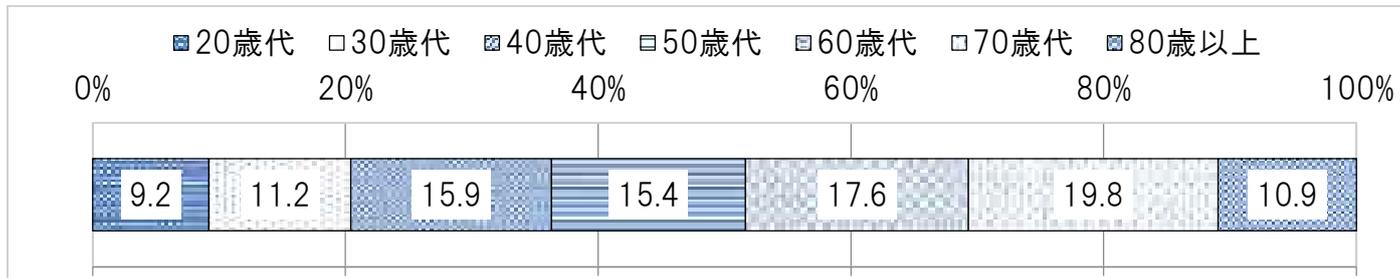
■居住圏域



■性別



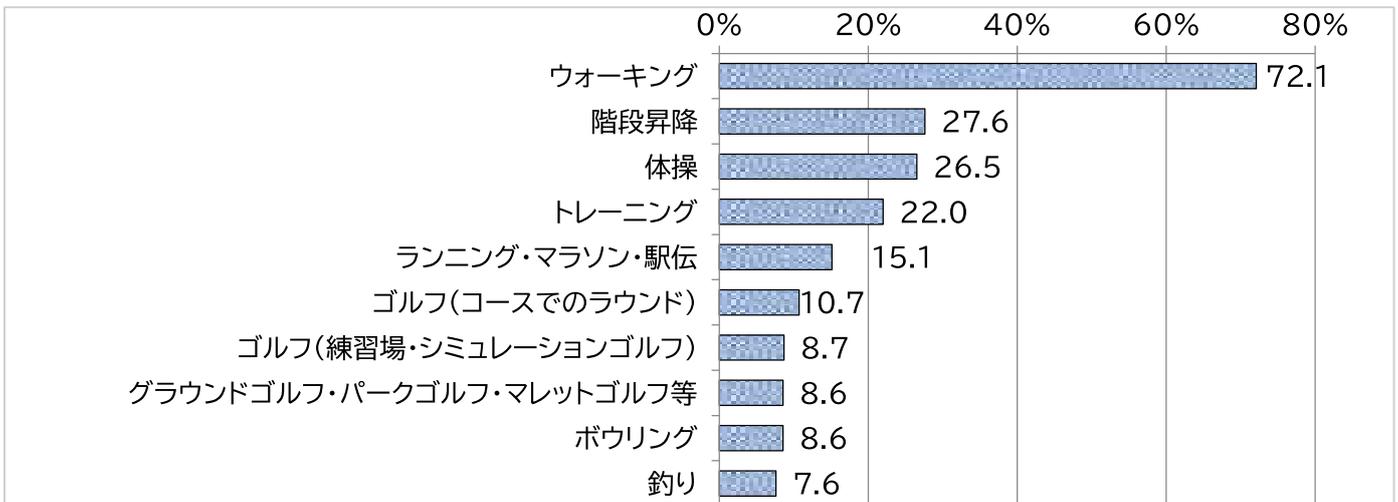
■年齢



■運動・スポーツの実施状況

今年1年間で行ったスポーツ・運動は、「ウォーキング」が 72.1%と最も多く、次いで「階段昇降」が 27.6%、「体操」が 26.5%、「トレーニング」が 22.0%となっています。

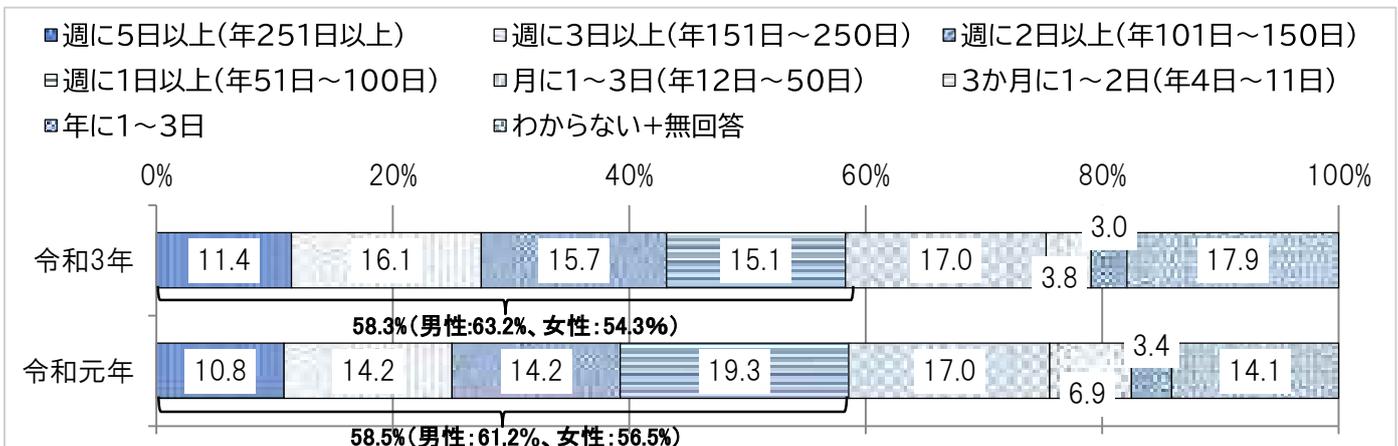
※選択肢59項目の中のうち、上位10位までを表示しています。



■運動・スポーツの実施日数

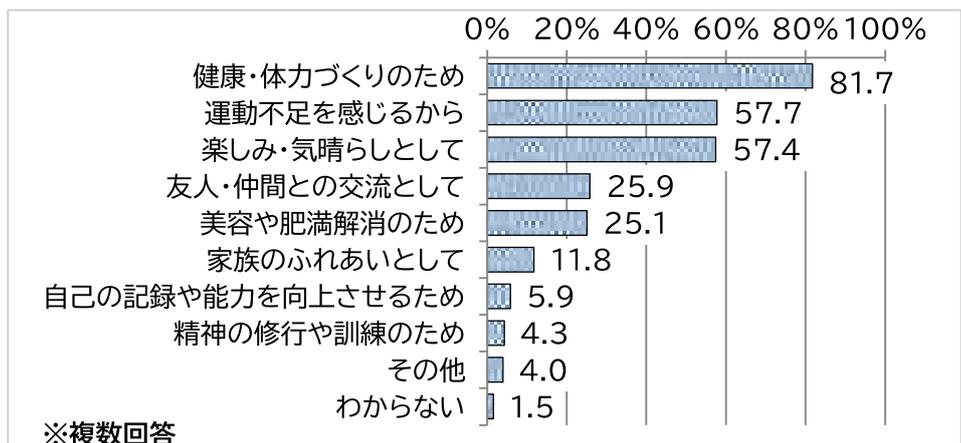
運動・スポーツの実施頻度は、「月に1~3日」が 17.0%と最も多く、次いで「週に3日以上」が 16.1%、「週に2日以上」が 15.7%、「週に1日以上」が 15.1%となっています。週1日以上運動・スポーツをする割合(スポーツ実施率)は 58.3%(男性:63.2%、女性:54.3%)となっています。

令和元年に実施した調査結果と比較すると、概ね同様の傾向となっています。



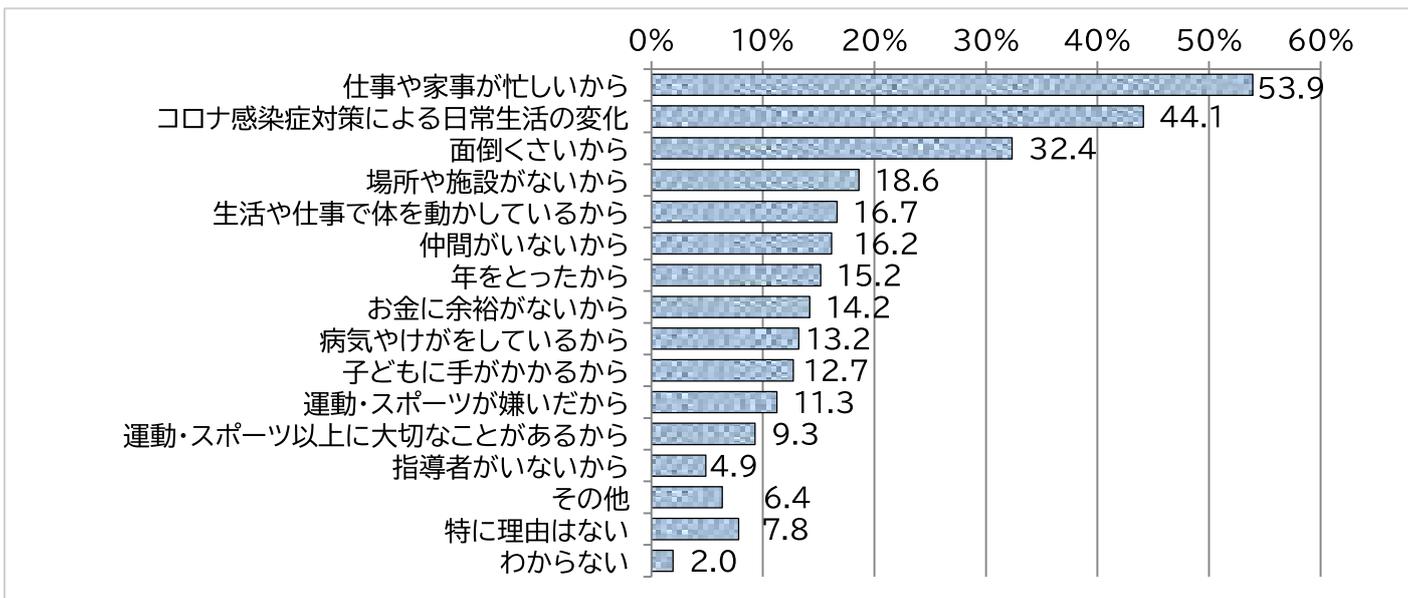
■1年間で運動・スポーツをした理由

スポーツをした理由は、「健康・体力づくりのため」が 81.7%と最も多く、次に「運動不足を感じるから」が 57.7%、「楽しみ・気晴らしとして」が 57.4%となっています。



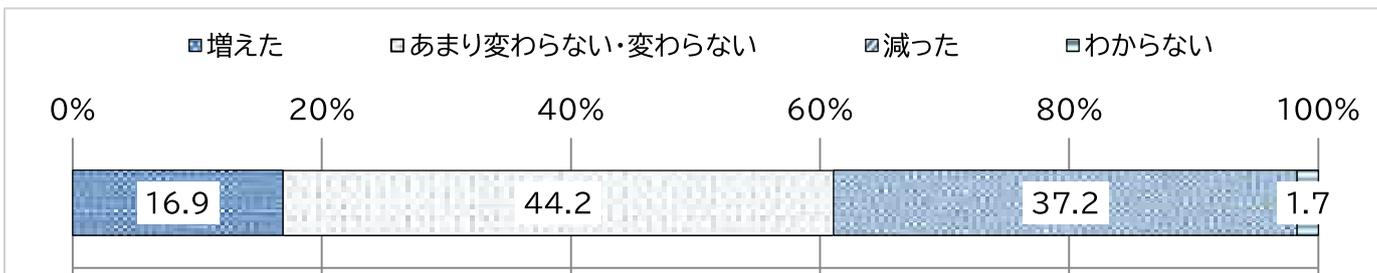
■1年間で運動・スポーツをしなかった理由

運動・スポーツをしなかった理由は、「仕事や家事が忙しいから」が53.9%と最も多く、次いで「コロナウイルス感染症対策による日常生活の変化」が44.1%、「面倒くさいから」が32.4%となっています。



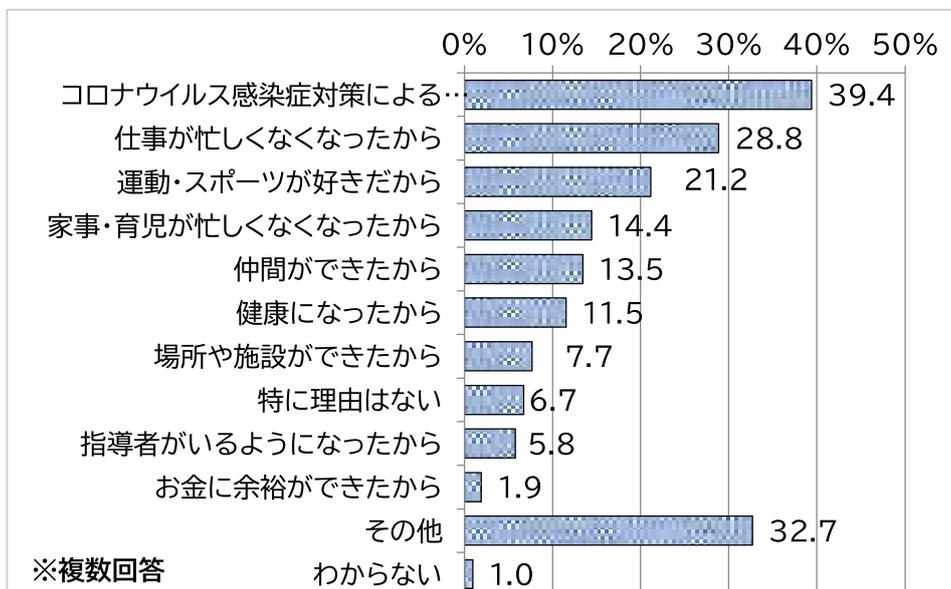
■前年と比較した運動・スポーツの実施状況

前年と比較した運動・スポーツの実施状況は、「あまり変わらない・変わらない」が44.2%と最も多く、次いで「減った」が37.2%、「増えた」が16.9%となっています。



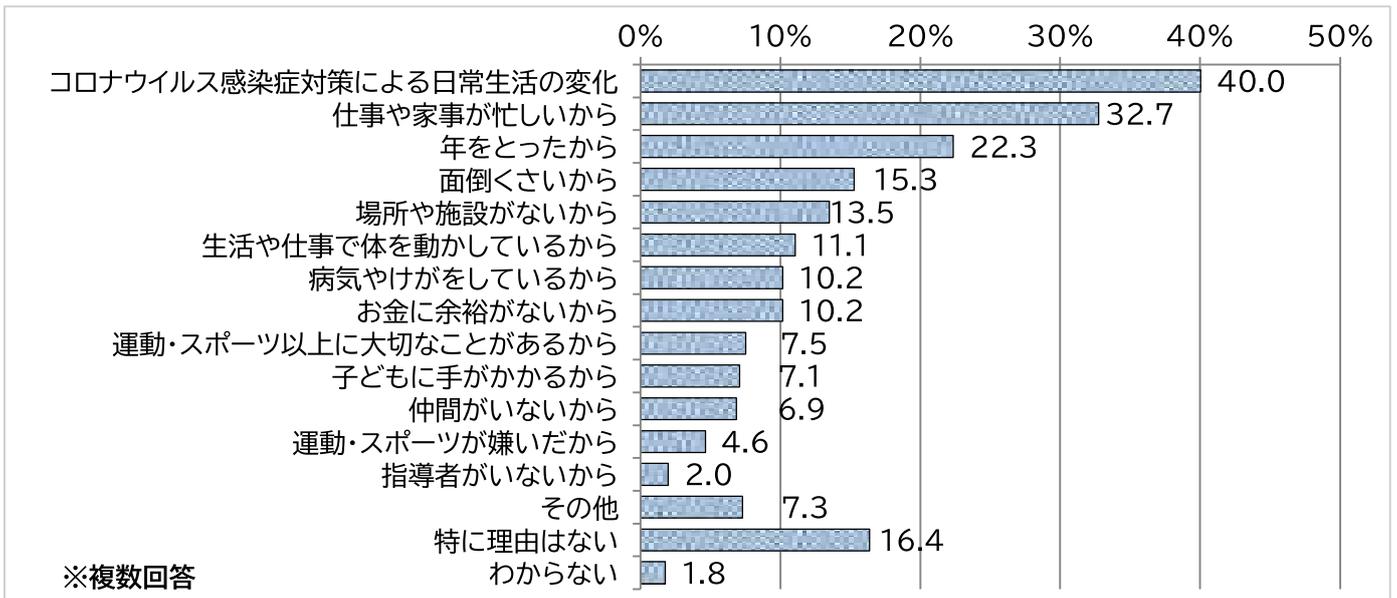
■運動・スポーツをする頻度が増えた理由

運動・スポーツをする頻度が増えた理由は、「コロナウイルス感染症対策による日常生活の変化」が39.4%と最も多く、次いで「仕事が忙しくなくなったから」が28.8%、「運動・スポーツが好きだから」が21.2%となっています。



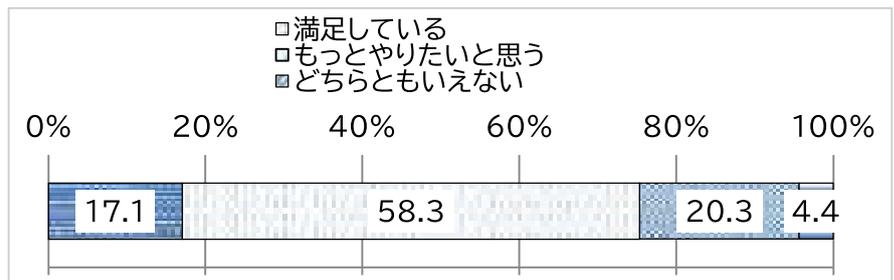
■運動・スポーツをする頻度が減った理由

運動・スポーツをしなかった理由をたずねたところ、「コロナウイルス感染症対策による日常生活の変化」が40.0%と最も多く、次に「仕事や家事が忙しいから」が32.7%、「年をとったから」が22.3%となっています。



■運動・スポーツの実施頻度の満足度

運動・スポーツの実施頻度の満足度は、「もっとやりたいと思う」が58.3%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が20.3%、「満足している」が17.1%となっています。

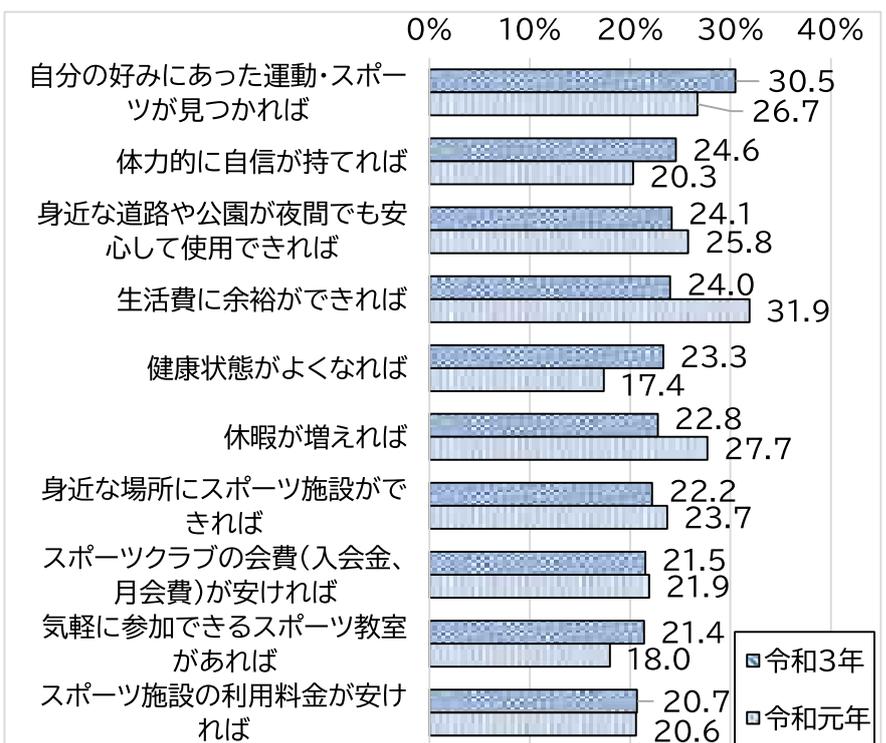


■運動・スポーツを始めるために必要な条件

運動・スポーツを始める必要な条件は、「自分の好みにあった運動・スポーツが見つければ」が30.5%と最も多く、次いで「体力的に自信が持てれば」が24.6%、「身近な道路や公園が夜間でも安心して使用できれば」が24.1%、「生活費に余裕ができれば」が24.0%となっています。

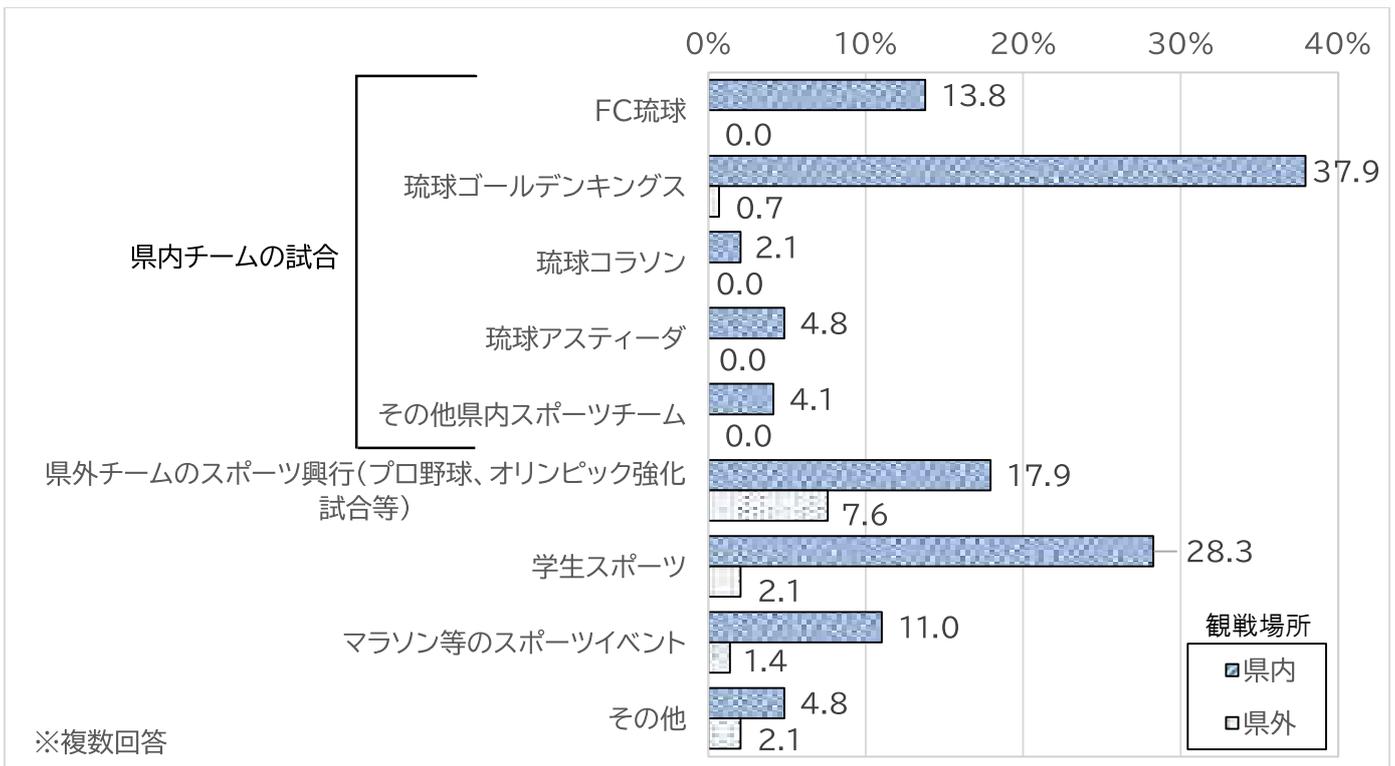
令和元年と比較しますと、前回「生活費に余裕ができれば」が1位であったが、今回は4位に下がっており、前年とは上位4位の順番が異なっている。

※選択肢 26 項目の中のうち、令和3年度の回答者数が20%以上のものを表示しています。



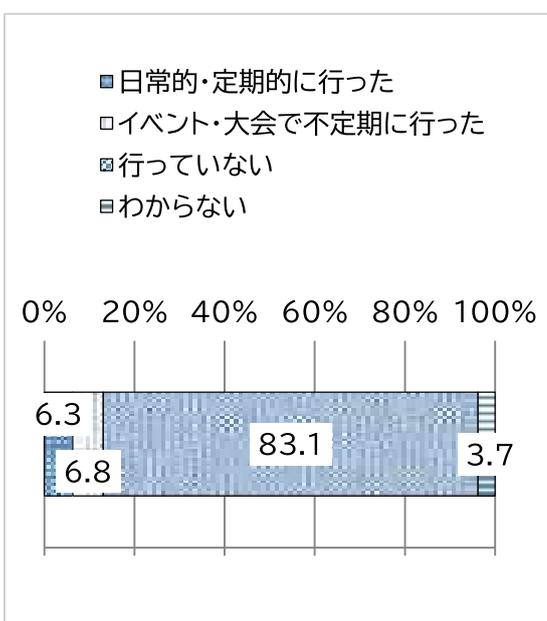
■1年間のスポーツ観戦状況

今年のスポーツ観戦状況は、「琉球ゴールデンキングス-県内」が37.9%と最も多く、次いで「学生スポーツ-県内」が28.3%、「県外チームのスポーツ興行(プロ野球、オリンピック強化試合等)-県内」が17.9%、となっています。



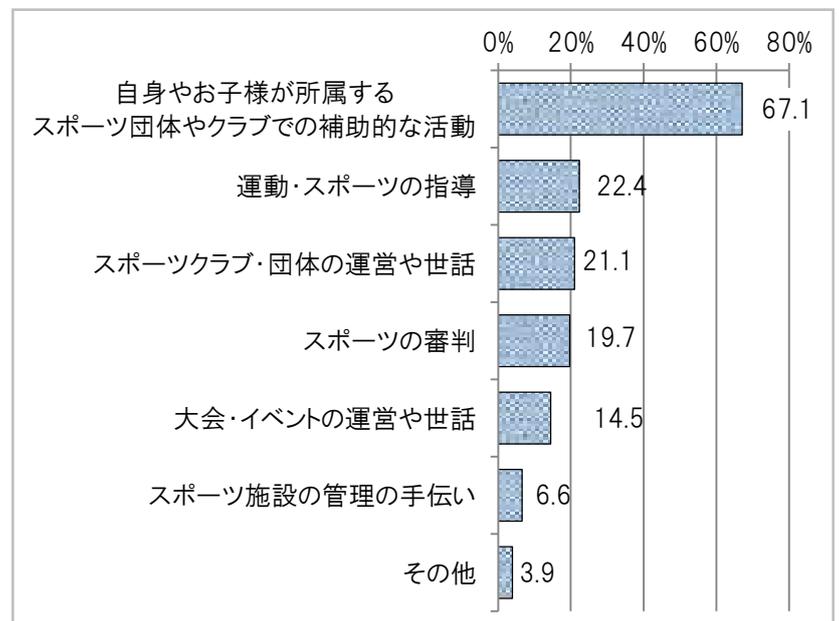
■スポーツボランティア活動の頻度

スポーツボランティア活動の頻度は、「行っていない」が83.1%と最も多く、次いで「イベント・大会で不定期に行った」が6.8%、「日常的・定期的に行った」が6.3%となっています。



■ボランティア活動の内容

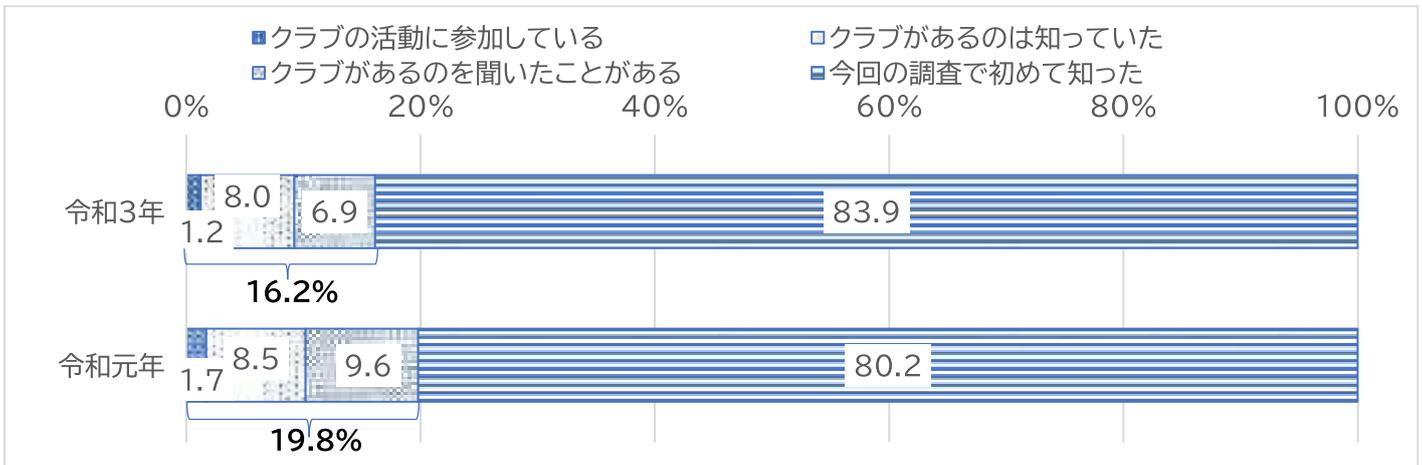
運動・スポーツボランティア活動の内容は、「自身やお子様が所属するスポーツ団体やクラブでの補助的な活動」が67.1%と最も多く、次いで「運動・スポーツの指導」が22.4%、「スポーツクラブ・団体の運営や世話」が21.1%、「スポーツの審判」が19.7%となっています。



■「総合型地域スポーツクラブ」の認知度

総合型地域スポーツクラブの認知度は、「今回の調査で初めて知った」が 83.9%と最も多く、次に「クラブがあるのは知っていた」が 8.0%、「クラブがあるのを聞いたことがある」が 6.9%、「クラブの活動に参加している」が 1.2% となっています。

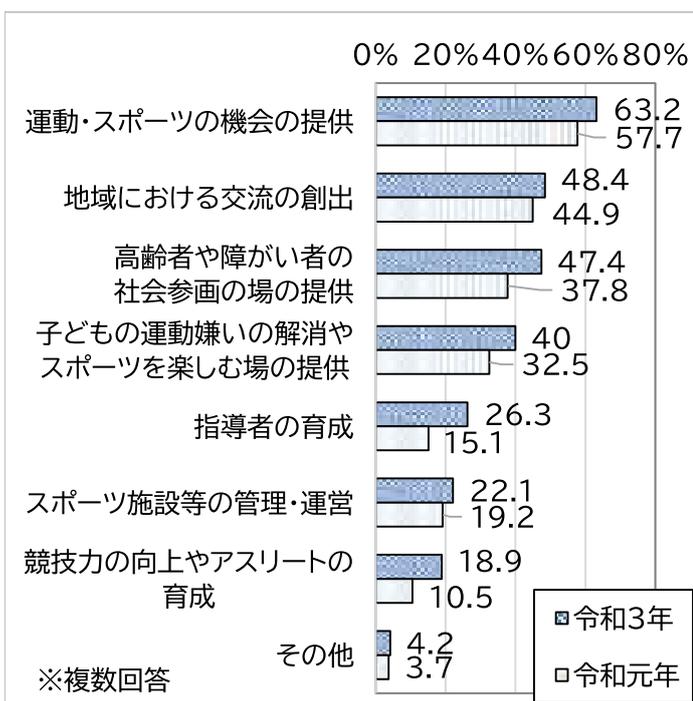
令和元年に実施した調査結果と比較すると、クラブへの認知が 3.6 ポイント減少しています。



■「総合型地域スポーツクラブ」に期待する役割

「総合型地域スポーツクラブ」に期待する役割は「運動・スポーツの機会の提供」が 63.2%と最も多く、次に「地域における交流の創出」が 48.4%、「高齢者や障がい者の社会参画の場の提供」が 47.4%、「子どもの運動嫌いの解消やスポーツを楽しむ場の提供」が 40.0% となっています。

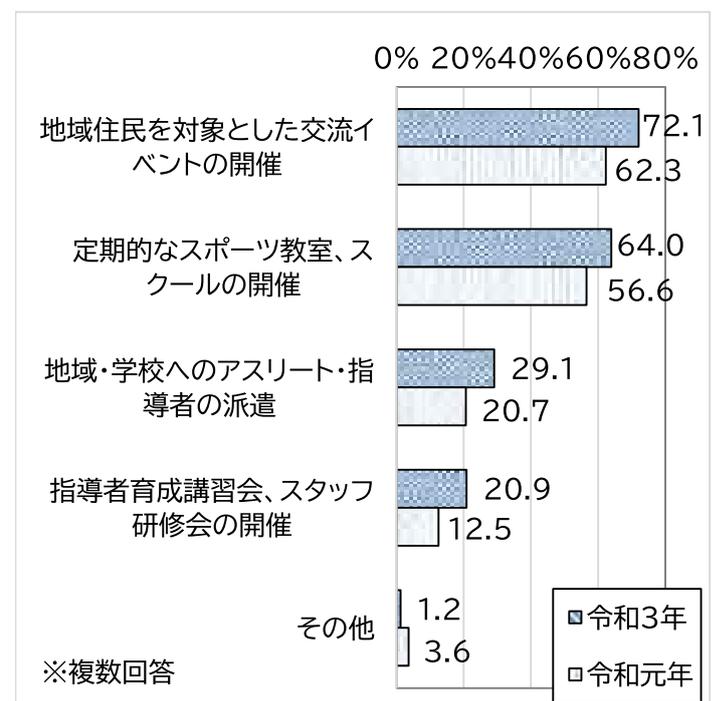
令和元年に実施した調査結果と比較すると、概ね同様の傾向で、各項目のポイントが増加しています。



■「総合型地域スポーツクラブ」に期待する取組

「総合型地域スポーツクラブ」に期待する取組は「地域住民を対象とした交流イベントの開催」が 72.1%と最も多く、次に「定期的なスポーツ教室、スクールの開催」が 64.0%、「地域・学校へのアスリート・指導者の派遣」が 29.1%、「指導者育成講習会、スタッフ研修会の開催」が 20.9% となっています。

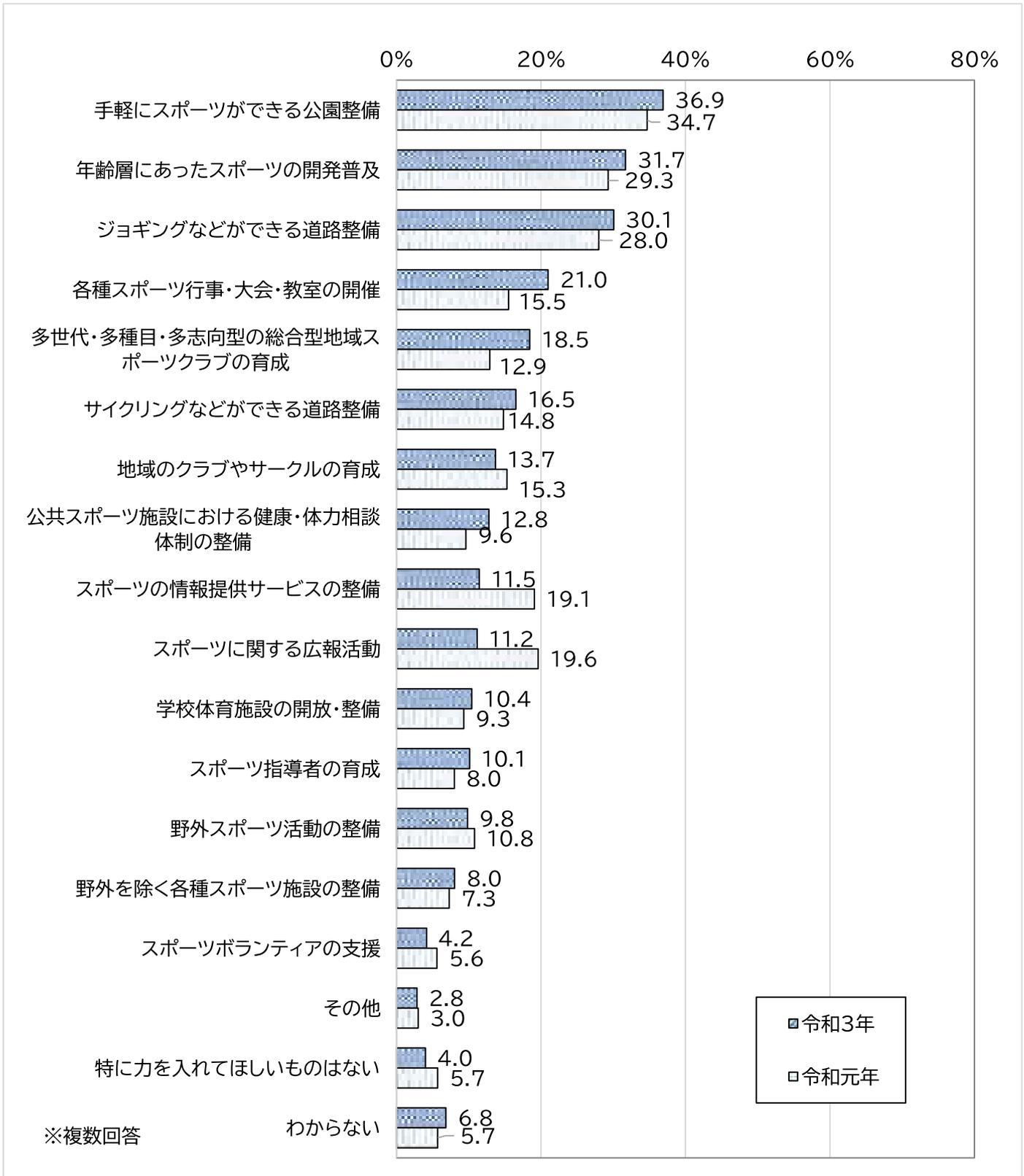
令和元年に実施した調査結果と比較すると、概ね同様の傾向で、各項目のポイントが増加しています。



■地域スポーツの振興のために行政に注力してほしい点

今後行政に力を入れてもらいたいことは、「手軽にスポーツができる公園整備」が36.9%と最も多く、次に「年齢層にあったスポーツの開発普及」が31.7%、「ジョギングなどができる道路整備」が30.1%となっています。

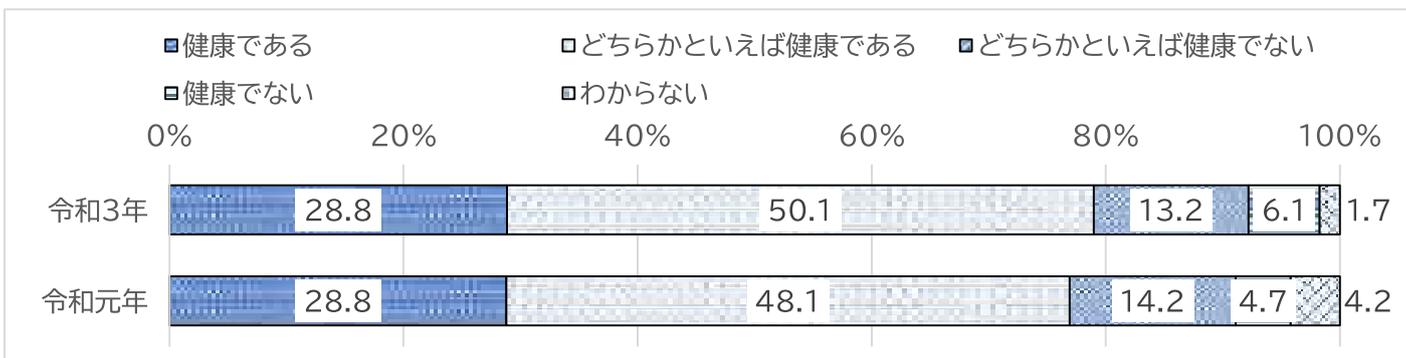
令和元年に実施した調査結果と比較すると、上位5位に入っていた「スポーツの情報提供サービスの整備」「スポーツに関する広報活動」がそれぞれ7.6ポイント減、8.4ポイント減となり、順位を下げています。



■現在の健康状態

現在の健康状態は、「どちらかといえば健康である」が50.1%と最も多く、次いで「健康である」が28.8%、「どちらかといえば健康でない」が13.2%、「健康でない」が6.1%となっています。

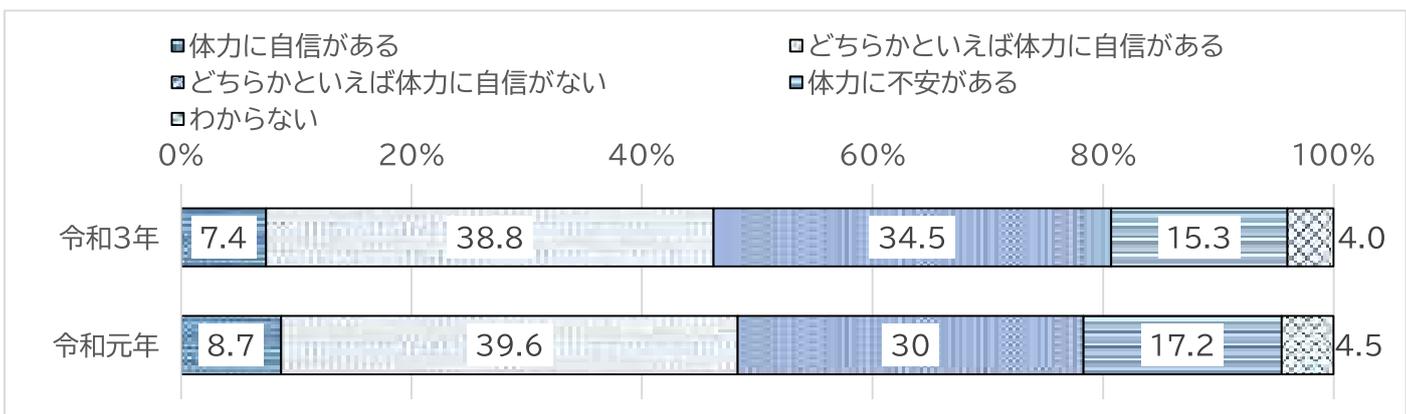
令和元年に実施した調査結果と比較すると、概ね同様の傾向となっています。



■体力の自信

体力の自信は「どちらかといえば体力に自信がある」が38.8%と最も多く、次に「どちらかといえば体力に自信がない」が34.5%、「体力に不安がある」が15.3%、「体力に自信がある」が7.4%となっています。

令和元年に実施した調査結果と比較すると、概ね同様の傾向となっています。



■運動不足に対する意識

運動不足に対する意識は、「ある程度感じる」が45.7%と最も多く、次いで「大いに感じる」が37.3%となっています。運動不足を感じる(「大いに感じる」「ある程度感じる」)割合は83.0%となっています。

